

2000年度海外研修KYOのあけぼの会研修事業

2000年11月6日(月) 於：嵐山 花のいえ

「外国人からみた日本女性」

— 人はなぜ旅をするのでしょうか! —

涼風そよよく早秋の嵐山の「花のいえ」を会場に、2000年度の研修事業を実施いたしました。

講師は、スイスのチューリッヒ出身でピアニスト、チューリッヒのオーケストラの役員として活躍されている才媛の親日家、ラング・イボンヌさん。初めての訪日は30年前で、14度にわたる。その間、日本三景は勿論、日本各地を訪れられているとのこと。イボンヌさんが、これまで経験されてきた、世界各地の旅をもとに、今回は私たちに自国のスイスをビデオと講演で、環境、政治経済、教育、文化など紹介していただいた。

講演の概要

スイスの主要言語は独・仏・伊・ロマンシュ語の4か国語である。スイスも世界の国々と同じく変わりつつある。26の州からなる連邦制の民主主義国、国の政策には全ての人民が参加できる。その集いは青空議会といわれ、同じ場所に観光客がいても制約はないとのこと。スイスは何事でも決まるのが遅いといわれるのは、民主主義は時間がかかるからで、様々な政策決定は青空議会で投票・決定されるとのこと。女性参政権は、10年前に獲得。男性は23歳まで徴兵制度が義務づけられているが、女性は任意で参加(ボランティア)。各々の家で武器を所持しているが、戦うためではなく、外国の侵略があった場合の自己防衛のためである。

産業は、景観の豊かさ — 観光、空気清浄 — 精密機器の製作技術の進歩、水資源の豊富さ — 水力発電が盛ん。GNP(国民総生産)一人当たり世界最高、また銀行も多い(秘密銀行も有名)。

教育・文化面では、教育制度が豊かで高水準、博物館、美術館も多い。ホテル専門学校は特に有名。

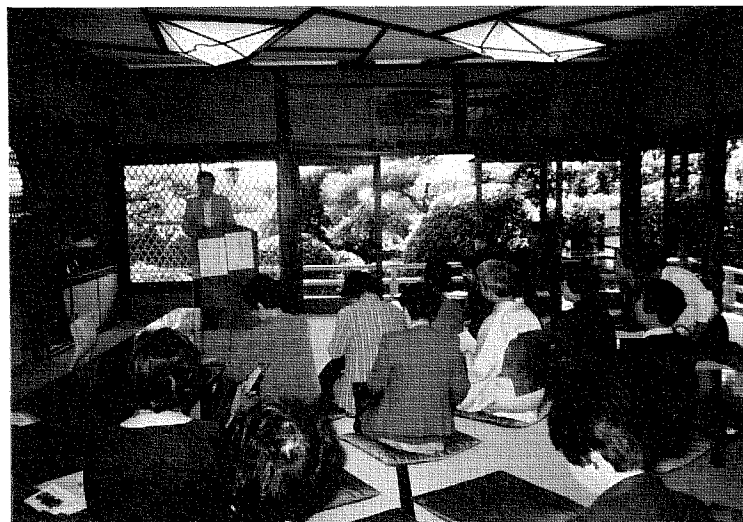
音楽ではスイス牛の呼び込み歌、ヨーデル、山の歌など世界で愛唱されている。

意見交流 (会員の発言を一部紹介します)

*今、私たちは男女共同参画社会の実現に向け女性問題などを学んでいるんですが、私なんかはヨーロッパはレディファーストっていうか、女性のほ

うが地位が高いように感じていたのですが、選挙権とかそういうのが遅れていると、今お聞きしたのですが、女性の立場っていうか地位ということに関しては、いかがですか?

*日本では男女共同参画社会基本法という法律ができ、女性だからこれをしなくてはいけないとか、女性だからこれはできないとか、というような意識の改革をしていこうとみんな一生懸命努力をしているんですが、例えば呼び名でも、主人ではなくて夫、というように呼び方まで変えていこうという努力をしているわけですが、イボンヌさんがお話されている中で、主人という言葉がよく出てきたので、やっぱり家庭の中とか職場の中、職場での賃金なんかはすごく高いなあと思ってお聞きしていたんですけど、女性の人権だとかそれから家庭での役割分担だとか、こういうことはスイスでは日常生活や、職場の中についてはどうなのでしょう。



*それぞれの国の歴史があると思います。北欧へ行きますとスウェーデンやノルウェーは、働いている女性が多いんです。男性は軍隊に入っているの、女性が国を守っている。そういう歴史的な背景が女性を早く社会へ進出させているという側面があるんですよ。だから日本は家庭とか地域の中で守る体制にあったんですが、これからはすごい勢いで女性も自立していくでしょう。ただし、困ることもたくさん出てきますね。子どもが結婚をしなくなるとか。女性が家庭と仕事を両立させるのはまだまだ難しいです。世界中同じ早さで同じ内容で同じペースで変わっていると思います。それは世界のすべて同じ情報が行き交ってきたのだと思います。

*私は第1回の海外研修生ですから、もう20年になります。西ドイツを中心に、チューリッヒにも行きました。そのとき、さっきおっしゃったように、すごく樹木を大切に、自動車が当たったら木を傷めた罰金を払うとかね、環境をととても大切にしている。それからすごく感動したのは、幼稚園を見に行ったんですが、その国で働いている外国の労働者のために保育所がちゃんと準備されていました。恐らく日本では自分の地域のものだけの心のゆとりもまだ無かったんじゃないかと、そういうあたりは西ドイツ、スイスそういった国から随分学ばせていただきました。それから老人ホームもきちんと確立されていて、社会保障がしっかりしていました。

私たちがアメリカに行ったときはまだその当時、婦人問題という感じでその糸口を見に行っていたんですが、日本では、役割分担で、男性は外で働く、女性は家庭の作業をするという生活をしていますが、アメリカにおいても財布は全て夫が握り、生活費しか渡さない専業主婦に近い妻の存在があることに驚かされました。



*国民も強さ、遅しさというものを身につけており、環境問題にしても生活の中にきちんと位置づけられているなあってことも学ばせていただきました。10年程前に西ドイツロマンチック街道に入ろうとした時、私の乗ったバスが排気ガスを沢山出しているというので山の途中で止められ、次のバスが来るまで待たされたのです。

*西ドイツで電車に乗ったときに、降りたい時に好きなところで降りられるのでどうすればいいのかが聞いたんです。改札もないし降りるときに切符も取らないで大丈夫なのかって、その答えがこの電車に乗ることによって自分はずっと利益を得る、それを感謝してみんなは切符を買うんだって。1人ひとり個がしっかりと確立しているんですね。狡いことをする気持ちはないですね。そういう面で日本人と違った社会性というの、子どもの時からそのように育てられているのに、すごく感動しました。

*ほかの国へ旅すればその人をつくってくれると言われるけれど、周囲の人に不快な感じを与えないというマナーを小さい時から厳しく躾ることが大切だと思います。

旅は人をつくる……平和で恵まれたスイスという国を紹介していただき、日本だけのひとりよがりなく、世界にしっかり目を開いていきたいと思います。